

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台 つながりあおう！みんなで語りあおう！が開催されました。



「連携・協業」と「世代を超えた交流・居場所づくり」をテーマに、令和6年12月21日（土）に『「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台 つながりあおう！みんなで語りあおう！』が開催されました。仙台こども財団の湯浅理事からは同財団実施の「こども・子育て支援団体の実態調査」を発表。

さらに、複数のNPO法人による活動事例の紹介やこども家庭庁からの有益な情報発信に加え、参加者が車座となってお互いの思いや考えについて意見交換をするグループワークも実施されました。

講演 | つながりあう・多世代交流～「こども・子育て支援団体の実態調査」を踏まえて～

〈発表〉湯浅 誠（一般財団法人仙台こども財団 理事長）

こどもたちが企画・運営を担ったゴミ拾いやお祭りの様子、地元企業と共に取り組んだ男性育休の推進など、設立1周年を迎えた同財団の活動が紹介されました。また、こども・子育て支援団体の現状把握と連携・協働の促進を目的に実施した実態調査のデータも紹介（7月実施/同財団のHPで公開）。調査結果からは、世代を超えた交流・居場所づくりに取り組む団体が多いことが明らかとなり、そのような団体のみならず、企業、学校などが、ますます連携を深め多世代が交流する機会やこどもの居場所づくりの重要性なども語られました。



世代を超えた地域交流が
大切だと語る湯浅理事長

活動事例紹介

〈発表〉小岩 孝子（NPO法人 FORYOU にこにこの家 理事長）、富樫 花奈（NPO法人 ふうどばんく東北 AGAIN 副代表理事）、安里 賀奈子（こども家庭庁 成育局成育環境課長・こどもまんなかアクション推進室長）

地域福祉に取り組む「FORYOU にこにこの家」からは、防災事業の一環として、防災ゲームを通じたこどもたちへの啓発活動や「かっこ和太鼓隊」と名付けられた和太鼓コミュニティによる地域とこどもたちとの交流創出が紹介されました。次いで登壇した「ふうどばんく東北 AGAIN」は、企業や団体同士の関係構築や活動資金についてなど、フードバンク事業を推進するための具体策を紹介。備蓄倉庫の確保などについても、地元企業の協力を得ながら、事業が拡大していると説明しました。最後は「こども家庭庁」から子育て支援の充実や施策が紹介されるとともに、地域団体と行政が連携を深めることで、ますます子育て支援の輪が広がっていくことを期待でき、国もそれを後押ししていると語られました。



活動報告では、地域を元気に
する多様な取組も



こども家庭庁は
子育てを段階に合わせて
支援する構造を解説

グループワーク | 「連携・協働」と「世代を超えた交流・居場所づくり」

参加者全員が5人程度のグループをつくり、自身が所属する団体の課題や取組、連携について話し合いました。地元企業や学校教員、地域ボランティア、こども食堂の運営者など、それぞれ違う視点からの意見が交わされ、最初はぎこちなかった会話も終盤には「もう少し話したい」と大盛り上がり。「田舎と都会での、子育て環境の違いを知れて有益だった」「学校の先生の切実な思いをしっかりと受け止められた」との感想が寄せられました。当日は学生レポーターの富永真由さんもグループワークに参加。熱気あふれる会場で飛び交う意見を興味深く聞いていました。



5人程度のグループで白熱の
議論が展開されました

【概要】

名称：「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台 つながりあおう！みんなで語りあおう！

場所：仙臺緑彩館（宮城県仙台市青葉区川内追廻無番 青葉山公園） / 日程：令和6年12月21日（土）

内容：講演 つながりあう・多世代交流～「こども・子育て支援団体の実態調査」を踏まえて～、活動事例紹介、グループワーク「連携・協働」と「世代を超えた交流・居場所づくり」

主催：仙台市、一般財団法人仙台こども財団 共催：こども家庭庁